

## 今年度の具体的作業の概要

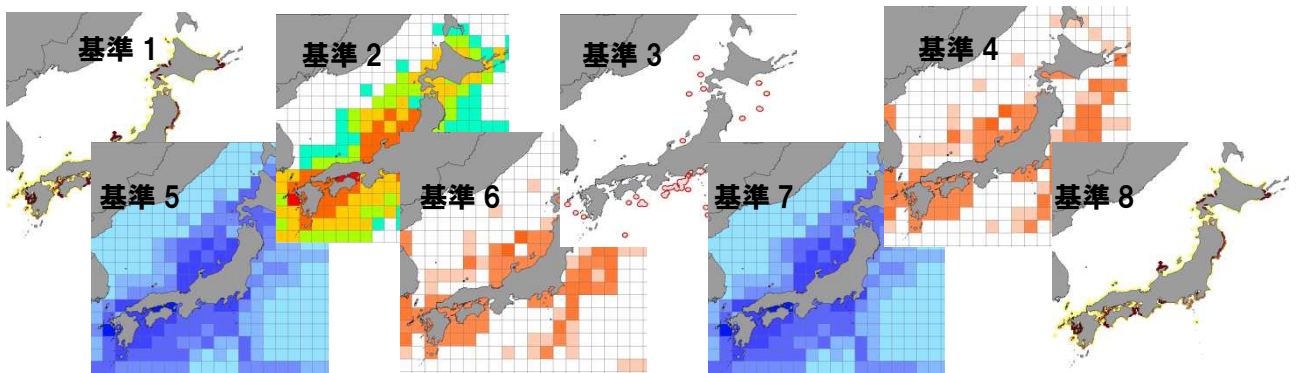
本年度は具体的に重要海域を抽出するための作業を進める予定である。本年度の大きなアウトプットとしては以下の二つを想定している。

- ◆抽出基準別の情報図： 各抽出基準に該当する海域を表現したもの
- ◆重要海域図（案）： 来年度決定される重要海域図のたたき台となるもの

### （１）抽出基準別の情報図作成について

抽出基準別の情報図は、各抽出基準に該当する海域を示したものである。これは、最終的に抽出された重要海域がどの抽出基準に該当しているかを参照するためにも重要であると位置づけられる。重要海域図作成にあたって、情報図を整理しておくことでデータの精度、信頼性、抽出基準の具体化、データの欠損を補う解析方法の検討などをより具体的に検討することもできるため、情報図の作成は重要海域図（案）の作成にも不可欠である。

抽出基準別の情報図を作成するにあたっては、利用予定データや解析方法が、8つの抽出基準との関連性に照らして明確であるかどうか重要なポイントとなる。これらを念頭に、各抽出基準について考えられる情報図作成の方法を検討する。抽出基準ごとの使用データ、解析方法案、図案（現段階のもの）は資料4に提示する。



抽出基準別の情報図イメージ

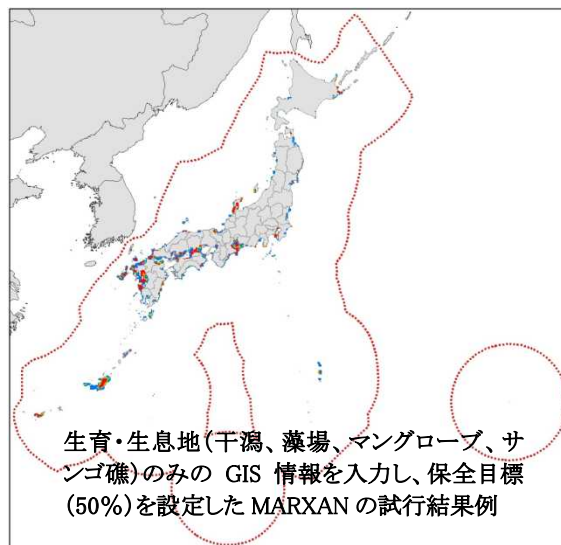
### （２）重要海域図（案）の作成方針について

重要海域図は、来年度に決定する。今年度はその前段階として、来年度の重要海域図決定の議論に資するような重要海域図（案）を作成する必要がある。

重要海域図（案）の作成にあたっては、8つの抽出基準別情報図を単純に重ね合わせて重要海域図とするのは必ずしも合理的ではない（抽出基準の性質がそれぞれ異なることに加えて、利用したデータの精度や性質もそれぞれ異なるため、単純により重なりが濃い場所が重要であるとはできない）。また、いかに恣意性を排除して科学的・客観的に抽出するか

も重要である。

そこで、抽出基準別の情報図をそのまま利用するのではなく、これらの情報図を作成するのに用いた元データを利用し、これらを MARXAN により解析する方法がより実効的であると考えられる。その理由は、種や生態系のデータそれぞれについて、パラメーターの条件設定を変えることができ、応用性が高いためである。こうしたパラメーターの設定によって、恣意性を完全に排除したことにはならないが、その設定条件を明らかにすることで、比較検討や再現性を担保することができる。



MARXAN は、種や生態系のデータを入力することでそれらが含まれるよう計算したり、評価対象ごとに保全目標などのパラメーターを設定することで重み付けをしたり、また、生態系の連続性を考慮して計算することができるなどのメリットがある一方で、こうした重み付けの設定の数値が恣意的になる恐れもあるため、パラメータの重み付けを様々に変えて試行を重ね、重要海域抽出検討会にて合意を得たものを重要海域図(案)とすることとする。

### (3) 来年度に向けての補助資料の作成について

上述の MARXAN による解析結果に加え、これを補助するために以下の作業を同時に進める。①、②の二つの図は今後の重要海域の決定においても非常に重要な補助資料の図となると考えられる。また③についても、重要海域と同時に重要な資料として公表される予定であるので、案の提示を行う。

#### ①抽出基準別情報図の重ね合わせ図

抽出基準別の情報図を重ね合わせた図を作成し、前述 MARXAN による重要海域図(案)と抽出基準との関係を検証するための補助資料とする。

#### ②元情報(生データ)図

MARXAN の解析結果はメッシュ情報としてしか表現されない。作成された重要海域図(案)の元情報(抽出基準別情報図に利用した GIS データ)を確認できるよう、元情報を重ね合わせた図を作成し、重要海域図(案)を検討する際の補助資料とする。

#### ③カルテの案

来年度に重要海域と同時に公表するカルテについてもその案(イメージ)を提示する。